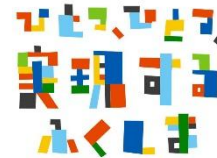


主要な農作物の生育情報



令和8年度 第3号
(令和8年6月15日現在)
福島県農林水産部農業振興課

【作物】

1 水稲

水稲の移植作業は、始期が平年より1日早い5月7日、盛期が平年より1日遅い5月16日となりました。

6月2日現在の農業総合センターにおけるコシヒカリの生育調査では、平年に比べて、本部（郡山市）は草丈が長く、茎数が多く、主稈葉数が0.5葉多くなっています。会津地域研究所（会津坂下町）は、草丈が長く、茎数がかなり多く、主稈葉数が0.5葉少なくなっています。浜地域研究所（相馬市）は、草丈がやや長く、茎数がやや少なく、主稈葉数が0.3葉多くなっています。

表1 農業総合センターにおける水稲の生育状況

調査場所	品 種	移植期 (月.日)	6月2日調査		
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (枚)
本 部	コシヒカリ	5.15	27.1 (110%)	146 (118%)	5.5 (+0.5)
	ひとめぼれ	5.15	24.3 (108%)	152 (105%)	5.4 (+0.4)
会津地域 研 究 所	コシヒカリ	5.20	28.4 (116%)	168 (146%)	4.6 (-0.5)
	ひとめぼれ	5.20	28.5 (128%)	139 (119%)	5.0 (-0.2)
浜 地 域 研 究 所	コシヒカリ	5.11	29.1 (106%)	206 (95%)	5.9 (+0.3)
	ひとめぼれ	5.11	25.2 (102%)	256 (105%)	6.1 (+0.3)

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) 括弧内の数字は、会津地域研のコシヒカリでは前4年平均（2021, 2023～2025年）、それ以外では前5年平均（2021～2025年）との比較

2 小麦（農業総合センターにおける生育状況）

各調査場所の出穂期は、平年より3～5日早くなりました。

【野菜】

1 夏秋きゅうり

県中地方の露地栽培は、平年並の5月中旬から下旬にかけて定植が行われています。5月22日、23日に一部で低温障害が発生しましたが、現在は回復し順調に生育しています。害虫はアブラムシ類の発生が見られていますが、病害の発生は平年より少なく抑えられています。

県北地方の雨よけ栽培は、4月上旬から定植が行われ、5月上旬から中旬にかけて定植盛期を迎えました。現在は主枝中段や側枝下段の収穫となっています。病虫害は、アザミウマ類の発生が多く見られています。

2 トマト

県南地方では、平年並の4月下旬から5月上旬にかけて定植が行われました。現在は順調に生育し、平年よりやや早い6月上旬から収穫が始まっています。病虫害は黄化葉巻病が発生していますが症状は軽度で、罹病株の抜き取りやタバココナジラミ防除等の対策が取られています。

南会津地方では、5月19日から定植が行われています。育苗期が温暖に推移したため、生育は平年より早まっています。目立った病虫害の発生はありません。

3 さやいんげん

県中地方では5月中旬から定植が行われています。会津地方の防虫ネット栽培では4月下旬か

ら定植が行われています。5月上旬以降の高温・乾燥により一部で葉焼けが発生しましたが、現在は順調に生育しており、平年よりつるの伸張が早くなっています。

病害虫は、ハダニ類やアブラムシ類が平年より早くから発生しています。

4 ピーマン

県中地方のトンネル栽培は、平年並の4月下旬から定植が行われました。5月上旬の強風によってトンネルが剥がされ、茎葉が傷ついたほ場も一部でありましたが、その後は全体的に順調に生育しています。露地栽培は5月下旬から定植が行われています。ハウス栽培、トンネル栽培では5月上旬からアブラムシや立枯病の発生が始まっています。

5 春ブロッコリー

県南地方では平年より早い4月下旬から収穫が開始され、平年並～やや早い5月下旬に出荷ピークを迎えました。収穫は6月下旬まで続く見通しです。相双地方では、平年並～やや早い5月中旬から収穫が開始され、6月上旬に出荷ピークを迎えています。

病害虫は平年より発生が少なく抑えられています。

【果 樹】（福島県農業総合センター果樹研究所における6月1日現在の生育概況）

1 もも

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が45.0 mm（平年比121%）、側径が40.6 mm（平年比135%）、「ゆうぞら」は縦径が45.2 mm（平年比121%）、側径が35.8 mm（平年比128%）といずれの品種も平年よりかなり大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「あかつき」は平年より大きく、「ゆうぞら」は平年よりやや大きくなっています。

2 なし

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が25.2 mm（平年比110%）、横径が30.3 mm（平年比116%）、「豊水」は縦径が27.6 mm（平年比110%）、横径が30.5 mm（平年比116%）と、いずれの品種も平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「幸水」は平年よりやや小さく、「豊水」は平年並です。

3 りんご

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が37.4 mm（平年比120%）、横径が35.3 mm（平年比110%）、「ふじ」は縦径が34.6 mm（平年比117%）、横径が30.7 mm（平年比111%）といずれの品種も平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「つがる」は平年並、「ふじ」は平年よりやや小さくなっています。

4 病害虫の発生

5月中下旬のナシ黒星病の発生ほ場割合は昨年よりも高く、果実での発生が広域的に確認されており（5月29日付け病害虫防除情報）、今後の発生拡大が懸念されます。モモせん孔細菌病は、梅雨時期に入ると感染が増加するおそれがあるため、引き続き注意が必要です。また、果樹カメムシ類のフェロモントラップ調査における誘殺数が平年に比べて多い地域があります。果樹情報等を発行して注意を喚起し、現地における耕種的防除や防除対策の徹底を図っていますので、併せてご確認ください。

【花 き】

1 キク類

8月咲きは、4月中旬から下旬にかけて順次定植作業が行われ、4月下旬から5月上旬にかけて摘心作業が行われました。生育は順調に進んでいますが、一部、灌水設備のないほ場では、定植後に降雨が少なく乾燥気味だったため生育がやや停滞している品種があります。

9月咲きは、5月中旬から下旬にかけて定植作業が行われ、その後順次摘心作業が進められています。

全体的に病害虫の発生は少ないですが、一部地域でアブラムシ類、アザミウマ類、白さび病、立枯病が小発生となっています。

2 リンドウ

8月盆及び9月彼岸のいずれの作型でも、平年並～平年をやや上回る草丈と節数となっており、生育ステージはやや進んでいます。

また、早い地域では5月下旬～6月上旬に早生系統の品種が上位側芽発生期となっており、そのほかの地域でも徐々に早生系統において上位側芽の発生が始まっています。

病害虫については、一部地域でアブラムシ類、リンドウホソハマキ、葉枯病が小発生となっています。

【飼料作物】

牧草は順調に生育しています。一番草は5月上・中旬から収穫期を迎え、現在収穫作業が行われています。収量は概ね平年並となる見込みです。

飼料用トウモロコシは4月下旬から始まった播種作業がほぼ終わり、順調に生育しています。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ）
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> 等を活用し、適切に対応しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7344

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#seiiku>